

よく使われる子どもの漢方薬（1）神経・精神

現在、我々の医療（西洋医学）は症状を抑える対症療法が主です。残念ながらこの医学には**体質改善という根本治療の概念**はありません。人は各々年齢・性別や体重、食べ物の嗜好、生活習慣などが違うので、自ずと体質も異なってくるのは当然考えられることです。

しかし、日常処方される薬剤は、診断名で統一されています。従って、「疲れやすい」「食欲がない」「落ち着きがない」など色々検査しても診断がつかない不定愁訴の場合には薬剤の選択に苦慮します。

その点、漢方薬は相手の体質（気・血・水の状態）を見抜いて処方されるので、それまで西洋薬では改善されなかった症状が良くなることが少なくありません。但し、その人の病態（体質）を診断することは容易でなく、長年の修業が必要となるのが欠点です。従って、先生によって同じ診断名の症例であっても処方が違ってきます。そこで今では当たらずとも遠からず、**診断名で漢方薬を処方することが少なくありません。**

では今回は子どもの心に効く漢方薬をご紹介します。

（1）甘麦大棗湯（カンバクタイソウトウ）：小麦（シヨウバク）、甘草、大棗（タイソウ、なつめの果実）で構成された**甘みのある漢方薬**です。心身の緊張を取り、心が落ち込んだり、涙もろくなっている状態を改善します。

夜泣きは、夜間急に泣き出し、なかなか泣き止まず、やっと寝たと思ったら、また起きて泣くという状態です。甘く飲みやすいので良く使

われます。飲んだその日から効果がみられる例もあります。

発達障害には、抑うつ傾向、不眠、強迫症状、悲観的な感情が強い症例に使用されています。

また**旅行の時の睡眠導入剤**として、搭乗前、搭乗後食事前に飲むと、自然に眠くなるようです。**痒みで眠りが浅い場合**にも使用されています。

（2）抑肝散と抑肝散陳皮半夏：怒りの感情が強く、常に緊張を強いられている症例に効果があります。釣藤鈎（チョウトウコウ）という生薬が、高ぶった精神を抑える成分を含みます。陳皮はみかんの皮で飲みやすくなります。

夜泣きに効果があり、特に興奮してヒステリックに泣くタイプに合います。

癩の虫、泣き入りひきつけにも効きます。睡眠中に歯をギシギシこすり合わせる**歯ぎしり**にも有効です。

緊張した時など眼をぱちぱちさせたり、肩をすぼめたりする**チック**にも効果がありますが、数か月から1年程度の継続が必要となります。

発達障害にも使用されますが、特に興奮、怒りっぽい、パニック、攻撃性など、怒りの強い症例に使用されています。

抑肝散は苦いお薬ですので、飲ませ方の工夫が必要です。乳児では乳児の便秘に使用するマルツエキスに混ぜたり、1歳以上でははちみつやメープルシロップ、年長児ではピーナッツバターに混ぜる方法もあります。

（チャイルドヘルス、2016.6月号 参考）

（たまなは）